

2024年5月31日

休暇をとり、片道9時間かけてペンシルバニア州にある「落水荘」を訪れた。フランク・ロイド・ライト設計による最高の住宅建築であり、米国建築史の中でも最も重要な住宅建築。住宅内にはライトが蒐集した浮世絵が飾られている。周囲の森と住宅の下を流れる小川と壇上になった滝。そこから聞こえる鳥の鳴き声と水の音。自然と建物が見事に調和・共鳴している。



ミシガン湖の風で泳ぎ出す公邸の鯉のぼり



落水荘にて

1 山本理顕氏のプリツカー建築賞受賞が示す日本のソフト・パワー

「建築界のノーベル賞」と言われるプリツカー賞の今年の受賞者は山本理顕氏。日本人としては9人目で、国籍では最多。プリツカー財団会長を挨拶に訪れた際には「何故、日本人建築家の受賞が多いのか」と逆に聞かれた。

「建築家の社会的責任について問題提起した」（審査員による今回の受賞理由）。「日本人建築家は社会的メッセージを発信しているから」（山本氏）。ライトが1893年のシカゴ万博における日本パビリオンの鳳凰堂に魅了されたように、自然と建物の調和も日本建築家の美点だろう。山本氏も自然環境と建築環境の一体化や対話を大事にしているという。

山本氏による受賞記念講演（16日：イリノイ工科大学）と授賞式・晚餐会（18日：シカゴ美術館）に光栄にも参列させて頂いた。講演会後は、多くの学生が列を作りサインや記念撮影を求めていた。授賞式には、建築アート関係者のみならず各界の要人が集まり、建築家の妹島和世氏・西沢立衛氏をはじめ日本からも多くの関係者が駆け付けていた。日本の建築家・建築は日本が世界に誇るソフト・パワーの一つだと、建築の街シカゴで改めて実感する。



記念講演をする山本理顕氏



授賞式の様子

2 各地の日本文化の発信の担い手と拠点

5月5日、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校の日本館設立25周年、郡司紀美子名誉教授(前館長)の教育活動50周年を祝う会合に夫妻で出席させて頂いた。

郡司氏は、日本館での活動のみならず各地で、茶道・生花・日本舞踊をはじめとする日本の伝統文化・芸術に加えて、「KOKORO」という言葉とその意味(mind, heart, spirit)を紹介してこられている。州内外や日本からも、多くの教え子や関係者が参集。年代を超えて多くの教え子からは、郡司氏と同人を通じた日本の伝統文化・芸術との出会いに「大きく感化された」「人生を変える転機であった」との祝辞が続く。

会合の後、日本館でのお茶席に招かれ、着物姿の米国人からお点前を頂いた。佐藤昌三名誉教授が1975年に設立した旧日本館が閉鎖された後、1998年、郡司氏を館長として、日本庭園や裏千家から寄贈を受けた伝統茶室を備えた現在の日本館が設立された。日本館が日本伝統文化・交流の拠点となり、佐藤氏や郡司氏から薫陶や指導を受けた各地の人々と繋がっていることを心強く思う。

5月19日にはインディアナ州第2の都市「フォートウェイン桜祭り」を訪れた。現地日系人組織、高岡市との姉妹都市関係者、土曜日校関係者が中心に企画・運営し、今年で16回目を迎えたという。場所は大学キャンパスを使用し、来客1万人以上と、中西部では、セントルイス、シカゴ、カンザスシティに次ぐ有数の規模。多くの地元の米国人親子連れが訪れ、若者と子供が、コスプレとアニメ・デッサン(本当に、皆さん、上手!)をはじめ、俳句、カラオケ、剣玉、折り紙等の参加型の催しを楽しんでいる。祭りには人々の一体感を醸成する力がある。桜は日米友好の象徴。2018年には総領事館から桜の苗期の寄贈と植樹を同市にしている。



日本館で 郡司先生親子と



フォートウェイン桜祭り

3 インディアナ経済グローバルサミットと日系企業視察

5月22～26日、ホルコム知事肝いりの一大イベント「インディ2024グローバル経済サミット」に参加した。州内外・各国から多くの経済ビジネス、中央・地方政府、外交団、学界関係者などが参加し、関係構築や発信には有益な場だ。日本からは、福田栃木県知事、大村愛知県知事、澤田副会長を団長とする経団連ミッションが参加。ホルコム知事や連邦上院議員との会談、スピーカーとしての登壇、栃木県インディアナ姉妹州県25周年レセプション、JETROと日米協会共催のイベント等、他国に比して群を抜く存在感。岸田総理訪問後のタイミングで、日本企業の経済活動と重層的な人的交流が日米関係の基礎になっていることを示した。信頼と友情の強い絆は州・県レベルで始まる。

最終日はインディ500。モナコ、ル・マンと並ぶ世界3大モーターレースであり、40万人が大挙して訪れる国民的イベント。雷を伴う暴風雨でスタートが4時間遅れる中で、ホルコム知事や商務長官など、州内外の要人と意見交換と懇談が続いた。中西部ではスポーツがネットワーク構築の場となっている。日本人として唯一出場した佐藤琢磨選手は2017年と2020年と2回優勝している。実際に観戦して、インディ500で優勝する（そして牛乳を飲み干す）ことがいかに凄いことか、認識を新たにした。



両知事他とイベントにて



インディ500の40万人の観客

往路には自動車部品を製造しているアイシンを視察した。5月は、その他にオヘア空港近くのニッポン・エクスプレスとミルウォーキーのコマツ・マイニングを訪れ、日本企業が、雇用のみならず、物流・サプライチェーン（リスクを考え、常に代替ルートを検討している）や顧客である大企業の脱炭素化支援等、様々な経済活動に貢献している現場を視察した。米国で活動する日系企業が良好な日米関係の基礎を築いていることに対し、改めて敬意を示したい。



日本エクスプレスを視察（15日）



コマツを視察（30日）

4 日系コミュニティ合同メモリアルディ式典

5月最後の月曜日、シカゴ日系人共済協会主催によるメモリアルディ（戦没将兵記念日）式典に夫妻で出席させて頂いた。米国の人々にとって夏の到来を告げる週末でもあるが、今年は寒風が吹いていた。主催者によると「毎年、とても暑いか、とても寒いか、どちらか」とのこと。そんな寒風にも負けず、当

地日系人団体や日系教会・仏教寺・神社等の宗教関係者、日米協会、商工会、日本人会の代表など、当地日系コミュニティから幅広く200名が参集し、経典朗読・祈祷・コーラス讃美歌・献花など、厳かに慰霊式が執り行われた。

シカゴ郊外のモントローズ墓地を訪れるのは着任直後の昨年9月以来のこと。第二次大戦後に唯一日系人の埋葬を受け入れた同墓地に対して、特別な思いを持つ日系人は多い。この地に来ると、戦争で亡くなられた人々に思いを馳せ、米国社会の信頼を勝ち得た日系退役軍人の方々に感謝の念を抱く。私の挨拶では、5月9日に、442部隊での功績により日系退役軍人カナヤ氏が仏最高勲章を授与されたことを紹介した。日米双方の誇りと価値観を失わず、米国社会に、そして日米関係に貢献してきた日系人の歴史を後世と一緒に伝えていきたい。



仏最高勲章を授与されるカナヤ氏



式典で挨拶する